

株式会社ワールド 国内小売事業 月次売上概況

会社名 株式会社ワールド
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 鈴木 信輝
 (コード番号: 3612 東証プライム市場)
 問合せ先 副社長執行役員 中林 恵一
 (電話番号: IR・グループコミュニケーション室 03-6887-1300)

2024年2月期 (2023/4/1~2024/2/29)		上期						下期					通期			
		4月 Apr.	5月 May	6月 Jun.	7月 Jul.	8月 Aug.	9月 Sep.	10月 Oct.	11月 Nov.	12月 Dec.	1月 Jan.	2月 Feb.	2H	Full Term		
売上前年比		伸び率 (%)														
国内小売売上		※1	105.4	105.7	105.0	111.5	111.1	※5 99.6	106.3	102.2					102.2	105.6
店舗売上		※2	106.0	105.5	105.0	113.6	113.0	※5 100.4	107.2	100.7					100.7	106.1
既存店売上		※3	109.7	109.2	108.4	118.2	118.2	102.7	110.9	103.7					103.7	109.6
Eコマース売上		※4	102.8	106.3	105.2	103.6	104.3	※5 96.6	103.2	108.4					108.4	104.0
店舗数		店														
月末(期末)小売店舗数		※2	2,225	2,223	2,223	2,205	2,202	2,208	—	2,210					—	—
出店			11	0	1	2	4	11	29	4					4	33
退店			10	2	1	20	13	5	51	2					2	53
M&A			0	0	0	0	6	0	6	0					0	6
既存店対象店舗数		※3	2,086	2,094	2,091	2,067	2,049	2,048	—	2,052					—	—

(注) 当資料は、原則として、翌月の第3営業日を目処に開示しており、速報値を含んでおります。このため、確定値が速報値と異なる場合、翌月の速報発表時に修正してお知らせいたします。また、通期の列においては、当月初から当月までの累計値を記載しております。
 ※1 売上数値は国内小売売上のみに限定されており、国内の卸売上や催事売上、海外売上などを含んでおりません。
 ※2 店舗売上及び店舗数には、直営店とVSPA(バーチャルSPA)を含んでおり、FC(フランチャイズ)や海外店を含んでおりません。
 ※3 既存店の定義は新規出店もしくは新規連結(グループ加入)から丸12ヶ月以上経過した店舗であり、前年同月と売場が同区画(同面積)で変動がないものとしており、対象店舗数も毎月変動いたします。
 このため、改装等に伴って移設される場合や1日以上休業する場合、既存店から除外しております(ただし、緊急事態宣言に伴う臨時休業店や営業時短店は既存店の対象としております)。なお、既存店にはEコマースの売上を含んでおりません。
 ※4 Eコマースの売上には、当社グループのブランド各社が自社サイト及び他社サイトで計上した売上を集計しております。
 ※5 2023年9月の国内小売売上前年比が99.9%から99.6%へ、店舗売上前年比が100.5%から100.4%へ、Eコマース売上前年比が97.6%から96.6%に修正されました。下線部をご確認ください。

(当月の概況) 休日数(前年差) 当月 △1 前年同月 +1

当月は、国内小売売上が前年同月比102.2%となり、内訳は店舗売上が同100.7%、Eコマース売上が同108.4%となりました。既存店売上は前年同月比103.7%でしたが、休日数が前年同月より1日減で約1.7%のマイナス影響と推計しております。また、既存店売上はコロナ禍前の2019年10月に対して102.9%でした。2019年10月の消費税引上げに伴う駆け込み需要の反動減(△4.7%)でハードルが下がっているものの、コロナ禍以降で初めてそれ以前の水準を超過しました。なお、期初に公表した業績予想とその前提条件は本日発表の中間決算を受けて据え置いており、10月の既存店売上伸び率は前年比103.7%(2019/10比105.1%)を計画していることから、下期も計画に対して順調な滑り出しといえます。当月は、月初から気温の寒暖差が大きくなり、残暑が厳しかった9月から一転、秋物実需商材の動きが活発となりました。月末にかけて気温の高い日が続く、冬への歩みが鈍い季節の影響を受けたものの、既存店売上は前年超の趨勢を保ちました。EC販路でも秋物実需のアウトリーチが高稼働したうえ、販促施策による集客効果が功を奏したこともあり、人流の店頭回帰が継続中ではあるものの、Eコマース売上が前年同月比108.4%と店舗販路を上回る昨対伸長率となりました。アイテム別においては、朝晩冷え込む日が増えてきたことから、アパレルではニットや初冬まで着られる羽織物が月前半から好調に推移し、雑貨ではファーブランケットや大判ケープといった室内で羽織るアイテムが月後半から稼働し始めました。ブランド別では、「オペーグドットクリップ」や「THE SHOP TK」に代表されるSCチャネルの主力ブランドが既存店売上を大きく伸ばしたほか、「デッサン」や「インデックス」、「ラグタグ」なども軒並み2桁成長とアパレルの好調さが目を引きました。

(参考: 前期実績)

2023年3月期 (2022/4/1~2023/3/31)		上期						下期					通期				
		4月 Apr.	5月 May	6月 Jun.	7月 Jul.	8月 Aug.	9月 Sep.	10月 Oct.	11月 Nov.	12月 Dec.	1月 Jan.	2月 Feb.	3月 Mar.	2H	Full Term		
売上前年比		伸び率 (%)															
国内小売売上			127.7	149.8	112.2	116.9	130.2	136.0	127.5	131.8	117.6	128.7	141.7	152.4	105.2	126.8	127.1
店舗売上			124.1	156.2	108.3	111.9	128.0	133.6	125.1	126.8	112.5	124.3	134.4	149.6	105.2	122.6	123.7
既存店売上			119.5	150.7	109.3	109.4	120.0	118.0	119.8	111.9	100.8	107.7	120.5	134.3	112.4	112.6	115.6
Eコマース売上			144.7	127.7	130.1	140.1	138.8	145.3	137.4	158.0	141.2	149.5	168.7	161.4	105.3	144.9	141.5
店舗数		店															
月末(期末)小売店舗数			2,364	2,358	2,353	2,341	2,316	2,313	—	2,301	2,304	2,304	2,248	2,205	2,224	—	—
出店			14	1	0	2	3	10	30	4	5	1	0	0	22	32	62
退店			11	7	5	14	28	13	78	16	2	1	56	43	28	146	224
M&A			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	25
既存店対象店舗数			1,569	1,577	1,577	1,568	1,539	1,533	—	1,541	1,550	1,553	1,497	1,460	2,083	—	—